

カミノ・デ・クルセス



この道は、パナマ植民地時代に金やその他財宝を運搬するために使われました。そのため、海賊に狙われるようになりました。大西洋チャグレス川周辺に位置しており、ニューヨーク発の船でチャグレス港に到着し、カヌーで川を渡ってこの道に辿り着きました。その後、馬やロバに乗って6日間旅をしてパナマシティに到着しました。

金鉄道

ステファンス-パレデス条約調印後の1850年、鉄道建設が始まりました。1855年、最初の電車が地峡を通る75キロメートルのレールを走りました。世界で7番目に建設された鉄道です。主な利用者はカリフォルニアの金の探鉱者です。この歴史上重要な鉄道は新しいキャナルロードウェイ会社によって再建されました。線路は、パナマ運河の有名な閘門やゲイラードカットや森林や美しいガツン湖の街道などを通る運河のルートに隣接しています。乗客用の車両は独特で、修復された現在は鉄道輸送の全盛期を思い出させます。



パナマ運河



フランス人による運河建設の試みの失敗の後、1903年にアメリカ合衆国がこのプロジェクトを引き継ぎました。そしてパナマ運河は1914年8月15日に完成しました。日本人技師、青土士氏も1904年から1911年の間、この建設に携わりました。ゲイラード・カット拡張により、幅33メートルの船がすれ違うことが出来るようになりました。現在、最大幅55メートルの船が通行出来る様、ポストパナマックス閘門のデザインで別の拡張工事が検討されています。日本は世界で3番目に通行量の多い国です。



ミラフローレス閘門には運河の模型を展示した観光センターがあり、展望台からは大洋から大洋へ渡る船を見ることが出来ます。また、インターナショナル料理を楽しめる高級レストランもあります。運河の一部分、又は全工程を通航することも可能です。



小さな村々を訪ねて

首都の中心部、アンコン丘の麓には、植民地時代の村、アンティリヤス・アフリカの村、先住民の村が再現されています。

植民地時代の村

教会、郵便局、広場、商店、そして、居間、書斎、台所付きの住居の植民地時代のデザインに文化遺産が反映されている代表的な内陸部の村です。外国人に伝統と風習を知ってもらえるように、伝統的な衣装、民俗的な品々、音楽、舞踊についての展示がされています。



先住民の村

パナマの最初の居住者の貢献を称えて造られました。住居のレプリカやノベ・ブグレ族、エンペラ族、ウオウナン族、クナ族の風習についての展示があります。より本物らしくする為に、村の建設にはほとんど自然の材料を使いました。



アンティリヤス・アフリカの村

最もカリブの文化が際立った村。パナマ運河建設の際に、パナマ人、中国人、ヨーロッパ人、アメリカ人と結びついたこの民族の豊かな文化に触れることが出来るでしょう。バルバドス、アンティグア、トリニダード・トバゴ、ドミニカなどからやって来ました。運河建設時に建設された彼らの住居と同様、このレプリカはアンティリヤス・アフリカの伝統的様式に基づいて作られました。



“米州開発銀行は、パナマの世界文化遺産保護を支援しています”

米州開発銀行駐日事務所

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-2 富国生命ビル16階

TEL: 03-3591-0461 Fax: 03-3591-0641

URL: <http://www.iadb.org/japan/>

在日パナマ大使館

〒106-0031 東京都港区西麻布4-12-24第38興和ビル902

TEL: 03-3499-3741 FAX: 03-5485-3548

E-mail: panaemb@gol.com

URL: <http://www.embassyofpanamainjapan.org> (英語・日本語)

在東京パナマ総領事館

TEL: 03-3499-3661 FAX: 03-3499-3666

E-mail: pacotj@mb.neweb.ne.jp (一般)

E-mail: panacontokyo-shipreg@mb6.dion.ne.jp (船舶)

在神戸パナマ総領事館

TEL: 078-392-3361 FAX: 078-392-7208

E-mail: panacosl-kj@ma.neweb.ne.jp

パナマ観光局 (IPAT)

www.ipat.gob.pa (スペイン語) www.visitpanama.com (英語・スペイン語)

著作・編集 在日パナマ大使館 (2006年)

パナマ

世界文化遺産
と
歴史を巡る旅



自由で独立した国家のアイデンティティを形作った歴史を確かめには是非いらして下さい。パナマは現在その素晴らしい歴史を背景に未来を築きあげています。心温かで、明るい人がいる私達のパナマをどうぞお楽しみください。

アルフレド・マルティス
在日パナマ共和国大使



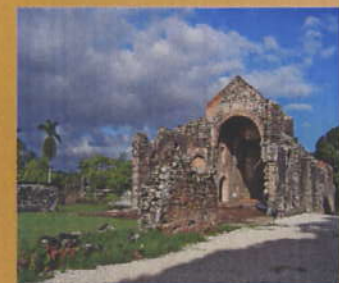
パナマ・ラ・ビエハ



パナマ・ラ・ビエハは、1519年にペドロ・アリアス・ダビラ総督によって建設されたスペイン都市の跡地で、一連の歴史建築を形成する建築遺跡の総称です。1671年にイギリスの海賊ヘンリー・モルガンにより襲撃を受け焼失したものの、現在も一部が遺跡として残っており、1997年、2003年にユネスコ世界遺産に登録されました。



総面積は28ヘクタールに及び、「ブエン・デル・レイ(王様の橋)」「ブエン・デル・マタデーロ」「ロス・コンベントス・デ・サンフランシスコ(サンフランシスコ修道院)」「サン・ホセ」「サント・ドミンゴ」「ラス・モンハス・デ・ラ・コンセプション(受胎した修女)」、コロニアル様式の住居、石畳の道などを見ることが出来ます。首都パナマシティから約8kmに位置し、17世紀の都市の模倣や、コロンプスによる大陸発見以前また植民地時代の数々の展示物を見ることが出来る博物館を備えたビジターセンターがあります。



パナマ・ラ・ビエハはパナマ人のみならず、中央・南アメリカ、カリブ地域全域においても重要な文化価値を持ち合わせています。



この一連のモニュメントは次のよう理由から非常に重要なものとされています。

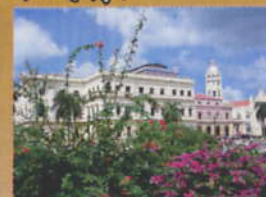
- スペイン人によって建設された初めての太平洋沿岸都市であること。
- アメリカ大陸征服の拠点となる都市であったこと。ここを拠点にガレオン船(大型帆船)で金銀がスペインに運ばれました。また、この都市を拠点にスペイン人によるインカ帝国(ペルー)征服が行われました。
- 有名なポルトベロの商業市に代表されるように、アメリカ大陸の歴史の中でも最も重要な商業ルートの一つでした。パナマ・ラ・ビエハは中南米地域近代化の初期例となっています。



カルメン教会



国立劇場



カスコ・アンティグオ



イエズス会廃墟跡



修復された家



ラス・アメリカス橋



バスコ・ヌニェス・デ・バルボア像



国立文化研究所

カスコ・アンティグオ

カスコ・アンティグオは、首都パナマシティの旧市街地区で、パナマ最古の都市、パナマ・ラ・ビエハでの火事の後、新しい都市が建設された場所として知られています。カスコ・アンティグオ建造物群は1997年と2003年にユネスコ歴史的世界遺産に登録されました。



1846年、カリフォルニアで金が発見され、鉄道敷設とフランス人による運河建設の開始により復興します。カスコ・アンティグオの内部には、宗教的、軍事的、民間の建物が建設されました。カスコ・アンティグオはパナマシティの中心部、サンフェリペ地区に位置し、路地は細く、レンガで舗装されています。コロニアル様式、ヨーロッパ様式、新古典主義の芸術が鑑賞できます。



王立裁判所長ドン・アントニオ・フェルナンデス・デ・コルドバ氏により、1673年に建設されました。この都市では3度も大火災が起こり、1675年に石造りの頑丈な城壁と7つの要塞を造り、防備を固めました。



首都大聖堂、サン・フランシスコ・デ・アシス教会、大統領官邸、パナマ市庁舎、城壁、国立劇場、パナマ運河博物館、フランシア広場、ゴンゴラの家など、見所が沢山あります。

パナマの風景

ポルトベロとサンロレンソ

ポルトベロ要塞群は、1980年ユネスコ文化遺産に認定されました。この地で商業市が開催されたことにより、ポルトベロはスペイン王国のガレオン船による金銀輸送に重要な役割を果たしていました。



ポルトベロはかつて2大植民地貿易の中心地でした。一つはペルーからスペインに向けた金銀輸送、もう一つは、スペイン王国の商業中心地であったセビリアからアメリカ大陸各地の植民地への物資の輸送です。



コロニアル地域内カリブ海沿岸、パナマ運河とサンブラス諸島の間にあります。首都から車もしくは飛行機で約1時間半です。



1575年フェリペ2世は、チャグレス川地域の商業保護の目的でサンロレンソ要塞の建設を命令しました。建築家ファン・パウティスタ・アントネジ氏によって設計され、フランシスコ・バルベルデ・イ・メルカド氏により1597年に創設されました。

